

減災 NEWS

近畿大学奈良病院DMAT災害対策委員会

文責：二川晃一

vol. 32 2026. 9. 28

令和8年熊本地震（7月28日午後4時27分）が発生しました。地震の規模はマグニチュード7.1で、熊本県内で最大震度7の激しい揺れを観測しました。この地震に対し、奈良県からの要請を受けて、当院のDMATコーディネーションチーム（DMATCoチーム）が出動することになりました（活動期間は8/5～8/12）。

■活動場所は八代地域保健医療福祉調整現地本部（八代保健所内）となりました。ここは八代市や氷川町などの被災地域で支援活動を一体的に調整するために設置された組織で、ここで活動指揮班として当院のDMATCoチームは活動しました。



■被災地域には様々な組織から派遣された救護班が活動していますが、その多くのチームの活動を指揮することがDMATCoチームの目的で、それぞれのチームを組織的に動かすことによって、被災地域全体に支援を届けることに繋がります。



■発災後1週間経過してから現地に入っただけで、救命メインの活動ではなく、被災者の生活再建や健康維持を目的とした支援が求められました。つまり外部からの救護班を減らし、もとの地域保健医療福祉体制へ戻していくということが重要なミッションでした。このあたりをうまく調整していくのが、DMATCoチームの役割です。救護班を減らすのと同様に本部で活動する人員も減ることになりました。はじめは他県から派遣されたDMATの3チームと活動していたのですが、活動期間の終了に伴い、物資支援班、病院支援班と合併することになり、それぞれの作業を分担しながら活動することになりました。私たちの活動期間中に水道の完全復旧には至らず、避難所では多くの被災者が避難生活を余儀なくされたままでの活動終了となりました。最近では報道も減りましたが、現地ではまだまだ支援が必要な状況が続いています。当院でも次の派遣に備えて準備を継続しています。

ご意見やご感想、ご質問等ございましたら、【患者さまの声】にお願いします。
（患者さまの声は、2階正面玄関前カウンター、再診受付機脇、各デイルームに設置しています。）